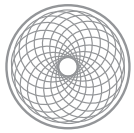
# HTML講習

2010年5月13日木曜日



HTML No.19

## フォント

## フォントファミリー（font-family）

フォントファミリー名と総称ファミリー名の優先リストを指定するプロパティ。

フォントファミリー名（半角カンマで区切り複数指定できる。日本語フォントやスペースが入るフォント名は、引用符で囲む。）

※@charsetでの文字コードセット指定と連動。

総称ファミリー名（キーワードで引用符で囲まずに指定する。フォントファミリー名で指定したフォントが利用できない場合に必要。必須推奨。）

font-family: "ＭＳ Ｐゴシック", "Osaka";

font-family: "ＭＳ Ｐゴシック", "Osaka", sans-serif;

↑　左から優先的に自動判別され、いずれも表示できない場合は、最後の「sans-serif」が選択される。

## 総称ファミリー名

- **serif（明朝体）「Times」「Garamond」「Bodoni」「ＭＳ Ｐ明朝」「ヒラギノ明朝 Pro W3」「平成明朝」など**
- **sans-serif（ゴシック体）「Arial」「Helvetica」「ＭＳ Ｐゴシック」「ヒラギノ角ゴ Pro W3」「Osaka」「平成角ゴシック」など**
- **cursive（筆記体フォント）「Caflisch Script」「Snell」「Sanvito」など**
- **fantasy（装飾フォント）「Alpha Geometrique」「Critter」など**

- **monospace（等幅フォント）「Courier」「Prestige」「ＭＳ ゴシック」「Osaka-等幅」など**

※IE5では、英数字が含まれる要素に、lang属性とxml:lang属性で「en」を指定しないと適用されない。

## フォントスタイル（font-style）

フォントのスタイルを指定するプロパティ。

normal（通常のフォントスタイル。デフォルト。）

italic（イタリック体に分類されるフォントを指定する。筆記体。）

oblique（斜体に分類されるフォントを指定する。傾けただけのスタイル。）

「italic」「oblique」で日本語を指定した場合は、日本語にはイタリック体がないので、どちらで指定しても斜めに傾けただけの斜体になる。

## フォントの変形（font-variant）

フォントの変形を指定するプロパティ。

normal（「スモールキャピタル」に分類されない通常フォント。デフォルト。）

small-caps（「スモールキャピタル」に分類されるフォント。）

スモールキャピタル（小文字の大きさの大文字。）

※英字で大文字と小文字のあるフォントしか適用されない。
日本語の漢字や仮名には適用されない。

## フォントの太さ（font-weight）

フォントの太さを指定するプロパティ。

100〜900（100刻みの9段階で太さを指定する。9段階の太さに対応していないフォントは、細かな設定はできない。）

normal（フォントを「400」の太さで指定する。デフォルト。）

bold（フォントを「700」の太さで指定する。）

bolder（フォントを1段階「+100」上げる。900より大きくはできない。）

lighter（ フォントを1段階「-100」下げる。100より小さくはできない。）

※多くのブラウザがサポートできるのは、「nomal」「bold」である。

## フォントの大きさ（font-size）

フォントの大きさを指定するプロパティ。

xx-small、x-small、small、medium、large、x-large、xx-large（絶対サイズ）
※規定値mediumの大きさは、ブラウザやユーザー設定による。 次の大きさは1.2倍で計算する。
※例）mediumが12pxの時、largeは14.4pxとなる。

larger、smaller（ 一段階大きくまたは、一段階小さくする。）

長さ（ px、ptなど。マイナス指定不可。「em」「ex」で指定した場合は、親要素からのサイズを参照する。）

%（ 親要素からのパーセンテージで指定する。）

※アクセシビリティでは、ユーザーに不必要に権限を先約するのは望ましくないと言われている。フォントサイズを絶対指定(ptやpxで指定する)する事である。
したがって、「pt」「px」を使用するより、「em」「ex」「%」を使用する事である。

※img要素にも、代替テキストのために、font-sizeを指定する事が望ましい。

# フォントの一括指定（font）

フォント指定を一括で指定するプロパティ。

以下の順序で指定する。省略不可のものは省略できない。

**1.font-size、font–varient, font-weight（順不同）**

**2.font-size（省略不可）**

**3./line-height（最初に「/」が必要。）**

**4.font-family（省略不可）**

### システムフォントでの指定

- **caption　ウィンドウのタイトルバーで使用のフォント設定**
- **icon　アイコンの名前で使用のフォント設定**
- **menu　メニューで使用のフォント設定**
- **message-box　ダイアログボックスで使用のフォント設定**
- **small-caption　小さなツールボックスのタイトルで使用のフォント設定**
- **status-bar　ウィンドウのステータスバーで使用のフォント設定**

（使用例）font: icon　のように、システムフォントのみでの指定となる

# テキスト

# インデント幅（text-indent）

テキストの最初の行のインデント幅を指定するプロパティ。規定値0。

長さ（インデント幅を長さで指定する。マイナス指定可。）

%（インデント幅をパーセンテージで指定する。マイナス指定可。）

※マイナス指定ではみ出した内容をどう表示するのかは、「overflow」で指定する。

# 行揃え（text-align）

テキストの行揃えを指定するプロパティ。

left（テキストを左揃えにする。）

right（テキストを右揃えにする。）

center（テキストを中央揃えにする。）

justify（テキストを両端揃えにする。）

※text-align・vertical-alignは、指定した要素に含まれるブロック要素には影響しない。ブロック要素の配置については、float・positionや左右マージン幅で指定する。

## 装飾（text-decoration）

テキストの装飾を指定するプロパティ。

none（テキストを装飾しない。デフォルト。）

underline（テキストに下線を引く。）

overline（テキストに上線を引く。）

line-through（テキストに打ち消し線を引く。）

blink（テキストを点滅させる。）

※none以外は、半角空白文字で区切り、複数指定できる。

## 文字間隔（letter-spacing）

テキストの文字間隔を指定するプロパティ。

normal（使用しているフォントの通常の文字間隔で指定。デフォルト。）

長さ（0でnormalと同じ。＋指定で間隔が広がり、-指定で間隔が狭まる。）

※全てのブラウザで必ずしも、指定した長さで文字間隔が表示される事はない。

## 単語間隔（word-spacing）

テキストの単語間隔を指定するプロパティ。

normal（使用しているフォントの通常の単語間隔で指定。デフォルト。）

長さ（0でnomalと同じ。＋指定で間隔が広がり、-指定で間隔が狭まる。）

※全てのブラウザで必ずしも、指定した長さで文字間隔が表示される事はない。

## 大文字と小文字の変換（text-transform）

テキストの大文字と小文字を変換するプロパティ。

capitalize（単語の1文字目のみを大文字に変換する。）

uppercase（すべての文字を大文字に変換する。）

lowercase（すべての文字を小文字に変換する。）

none（変換しない。デフォルト。）

※日本語などのテキストでは利用価値がない。

## 空白文字の処理方法（white-space）

要素内に含まれる半角空白文字の処理方法を指定するプロパティ。改行も空白とされる。

normal（連続する空白文字をひとつに圧縮し、行ボックスを越える場合は改行される。）

pre（連続する空白文字の圧縮を禁止する。改行はソース内の改行の位置か「br」改行）

nowrap（連続する空白文字をひとつに圧縮するが、「br」でしか改行しない。改行しない場合、ボックスからはみ出る。）

pre-wrap（連続する空白文字の圧縮を禁止するが、改行はソース内の改行・「br」改行・行ボックスを越えた場合に行われる。）

pre-line（連続する空白文字をひとつに圧縮するが、改行はソース内の改行・「br」改行・行ボックスを越えた場合に行われる。）

none（処理しない。デフォルト。）

※CSSでのデフォルト設定として、white-spaceプロパティを指定しておくべきとされる。